

伊賀の自然

第11回

『ヒダサンショウウオ』



ヒダサンショウウオの卵

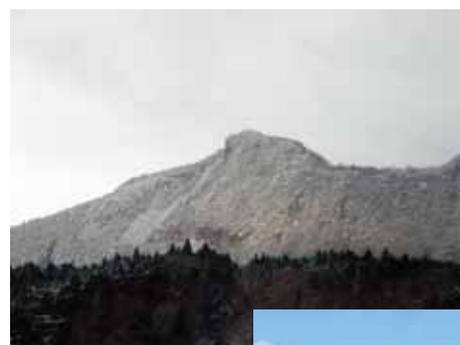
ヒダサンショウウオ

ヒダサンショウウオは、伊賀では青山高原の溪流にいる体長8～15cmの小型のサンショウウオです。関東以西の本州に生息する日本固有種で、伊賀のレッドデータブックでは絶滅危惧IB類に指定しています。暗褐色の体に、黄色かだいたい色の豪華な漆塗りのようなまだらがあり、つぶらな目をしています。

普段は林床にいますが、繁殖期には溪流において産卵します。この時、森と溪流の間にU字溝があると、落ちて出られなくなり、絶滅した場所もあり、スロープの設置など配慮が必要です。2月頃から溪流の石の裏に、写真のような餃子型の卵を産みます。卵は二房ずつ対になっていて、透明で虹色に輝いています。この時期、溪流ではもう春がはじまっているのです。

伊賀の山並み 倶留尊山

前回に続き、伊賀富士の一つである、「倶留尊山」について紹介します。倶留尊山は、尼が岳の西に見える富士山型の山です。富士山らしく見えるのは伊賀側からで、近くで見ると切り立った崖に囲まれてちっとも富士山らしくはありません。倶留尊（くろそ）とは、山の西側に祀られている石仏の名前だそうです。大昔いた巨人の名前とも言われています。謎の名前「くろそ」の地名は各地にあります。また、この倶留尊山は、ススキの大草原が広がる曾爾高原、竜が住んでいたお亀池、南限の高層湿原などが有名です。



倶留尊山の雪景色
(近くから)

倶留尊山(右)
尼が岳(左)



武田恵世

歯科医師、歯学博士 伊賀市上野桑町で開業。伊賀市環境保全市民会議 レッドデータブック作成委員会 委員長。環境省希少野生動植物種保存推進員。日本鳥学会、日本生態学会 会員他。著書に「風力発電の不都合な真実」(アットワークス刊)などがある。